

令和8年度 シラバス

()

学年	教科	科目	単位数	担当教員	展開	使用教科書	新編 現代の国語 改訂版								
1	国語	現代の国語	2	小林 為五郎	必修	副教材名	現代の国語学習ノート/国語便覧/カテゴリー別コトバ漢字								
科目の目標		実際の社会生活に通用する実践的な「話す・聞く」「書く」「読む」力を育てる。													
学習の内容と進め方		基礎・基本事項である、「発音・発声」「表記のルール」「類義語・対義語」「文の組み立て・つなぎ方」「文章の構成」等を丁寧に扱えるよう、プリントを用いた作業学習を中心に進める。													
学習の留意点		日常話したり書いたりしている言葉を、自分以外の他人にしっかりと伝えるという意志を持って学ぶ。													
評価の観点	知識・技能	国語の特質を理解し、適切に使っている。													
	思考・判断・表現	各領域において、他者との関わりの中で伝え合う力を高めている。													
	主体的に取り組む態度	言語感覚を磨き、言葉を効果的に使おうとしている。													
評価規準	知識・技能	A	Bを上回る状況を達成している。												
		B	場面に応じた適切な表現や言葉遣いについて理解し、適切な表現で伝えている。												
		C	Bの状況に達成していない段階である。												
	思考・判断・表現	A	Bを上回る状況を達成している。												
		B	「話すこと・聞くこと」において、相手の主張を理解し、自分の意見や思いを伝えている。「書くこと」において、場面や相手に応じた分かりやすい文章で表現している。「読むこと」において、文章の意図を適切に読み取っている。												
		C	Bの状況に達成していない段階である。												
	主体的に取り組む態度	A	Bを上回る状況を達成している。												
		B	伝えようという意図を持って自分の思いをまとめようとし、適切な表現を選択しようとしている。												
		C	Bの状況に達成していない段階である。												
学期	月	予定時数	単元	具体的な学習内容	評価の観点			評価方法等							
一 学 期	4	6	○ガイダンス 1 ことばをひらく	<ul style="list-style-type: none"> 筆者の主張を、論理の展開に即して的確に捉える。 自分の考えることを文章にまとめる。 場面や目的に応じた適切な言葉遣いを理解する。 書き言葉の役割や特徴を知る。 接続詞を適切に用いて文をつなぐ。 	○	読・書	○	観察・作業							
		0													
	5	8	2 日本語を使いこなす		<ul style="list-style-type: none"> 効果的な説明の仕方を知る。 一般的な事象と個別の事象との関係性を知り、論理を展開する。 論理的な文章の読み方を知る。 	○	読	○	観察・作業						
		0													
		0													
		0													
		7								3 わかりやすく説明する	<ul style="list-style-type: none"> 聞き取る姿勢を身につける。 聞き取って得られた情報をメモ化する。 メモ化された情報を再整理する。 (夏季休業中の課題：読書感想文) (夏季休業中の課題：読書感想文)	○	話・聞 書	○	観察・作業
		0													
	0														
	0														
	7	4 聞く力を育む	<ul style="list-style-type: none"> 論理的な文章の構成を理解する。 具体と抽象、対比の関係、主張と根拠の観点から、要旨を的確に読み取る。 		○	読	○	観察・作業							
	0														
	7	0	6 伝え合いのレッスン 6 伝え合いのレッスン		<ul style="list-style-type: none"> テーマを決めて話し合う。 テーマを決めて話し合う。 話し合いの結果として、一定の結論を得る。 	○	話・聞	○	観察・作業						
		0													
二 学 期	9	8	8 情報と向き合う	<ul style="list-style-type: none"> 情報を相互に関係づけて考える。 根拠の妥当性について理解する。 	○	読	○	観察・作業							
		0													
	10	0							9 他者を動かす	<ul style="list-style-type: none"> 目的に応じた表現や言葉遣いを理解する。 伝えたいことが伝わる表現技法を理解する。 説明の仕方や表現を工夫する。 決められたテーマに沿ってプレゼンテーションをする。 	○	書 話・聞	○	観察・作業	
		0													
		0													
		0													
12	0	7 説得力を高める	<ul style="list-style-type: none"> 自分の意見を持つ。 読み手の理解が得られる構成や展開について理解する。 	○	書	○	観察・作業								
	0														
三 学 期	1	0	10 社会に目を向けて	<ul style="list-style-type: none"> 個別の情報と一般化された情報の関係を理解する。 筆者の主張をもとに、自分の考え方を整理する。 	○	読	○	観察・作業							
		0													
	2	0							7 説得力を高める	<ul style="list-style-type: none"> 自分の意見を持つ。 読み手の理解が得られる構成や展開について理解する。 	○	書	○	観察・作業	
		0													
		6													
		0													
3	0	10 社会に目を向けて	<ul style="list-style-type: none"> 個別の情報と一般化された情報の関係を理解する。 筆者の主張をもとに、自分の考え方を整理する。 	○	読	○	観察・作業								
	0														
小計	12														
合計	70														

令和8年度 シラバス

()

学年	教科	科目	単位数	担当教員	展開	使用教科書	新編 言語文化 改訂版					
1	国語	言語文化	2	小林 為五郎	必修	副教材名	現代の国語学習ノート/国語便覧/カテゴリー別ことば漢字					
科目の目標		現代文・古文・漢文をバランス良く学習し、言葉と文化への理解を深める。										
学習の内容と進め方		プリントを用いた作業学習を中心に進める。										
学習の留意点		文学的文章に触れ、その中から自己を高めようとする意志を持って学ぶ。										
評価の観点	知識・技能	言葉の特徴や使い方、日本語の言語文化について理解を深めている。										
	思考・判断・表現	「読むこと」において、内容・構成・展開などを的確に捉え、作品の解釈を深めるとともに、物の見方、感じ方を深めている。										
	主体的に取り組む態度	生涯にわたって読書に親しむ態度を身につけ、自己を向上させる姿勢を持とうとしている。										
評価規準	知識・技能	A	Bを上回る状況を達成している。									
		B	テキストに用いられている語句の意味や表現技法、古文や漢文の基本的な文法を適切に理解している。									
		C	Bの状況に達成していない段階である。									
	思考・判断・表現	A	Bを上回る状況を達成している。									
		B	本文の叙述に即して内容を的確に理解し、登場人物の心情や行動を理解している。									
		C	Bの状況に達成していない段階である。									
	主体的に取り組む態度	A	Bを上回る状況を達成している。									
		B	作品世界に関心を持ち、筆者の意図を感じ取って作品を味わっている。									
		C	Bの状況に達成していない段階である。									
学期	月	予定時数	単元	具体的な学習内容	評価の観点			評価方法等				
一学期	4	5	○ガイダンス ○1 ことばと出会う	<ul style="list-style-type: none"> ・ことばが果たしている役割を理解する。 ・ことばを見つめ直し、語彙を増やす。 ・小説に親しむ。 ・登場人物の心情を理解し、展開の妙を味わう。 ・基本的な文語文法について知識を得る。 ・説話を読み、古文の文体に親しむ。 ・基本的な訓読のきまりについて知識を得る。 	○	読	○	観察・作業				
		6							○2 表現を味わう	読	○	観察・作業
		7							○8 ●1 古文に親しむ			
	8	○0										
	9	○0										
	5	10	○0									
		11	○0									
		12	○0									
	6	1	○0									
		2	○0									
		3	○0									
	7	4	○8 ★1 漢文に親しむ		○	○	○	観察・作業				
5		○0										
6		○0										
小計	27											
二学期	8	3	○3 文化を見つめる ●2 随筆を楽しむ	<ul style="list-style-type: none"> ・日本文化の特質について理解する。 ・日常生活の中に思っている日本文化の特色や伝統について理解を深める。 ・現代にも大きな影響を与えている、筆者の人間観や自然観を理解する。 ・まとまった分量の漢文を読みこなす。 ・故事成語の成り立ちについて理解する。 ・人間の持つ普遍性について興味を持つ。 ・現代にも大きな影響を与えている、孔子の思想について理解する。 	読	○	観察・作業					
		4						○6	読	○	観察・作業	
		5						○0				○
	6	○6										
	7	○0										
	9	8	○0									
		9	○10									
		10	○0									
	10	11	○0									
		12	○0									
		1	○0									
	11	2	○0									
3		○0										
4		○0										
12	5	○5 ★3 古人に学ぶ	○	読	○	観察・作業						
	6	○0										
	7	○0										
小計	30											
三学期	1	3	○5 ことばと生きる ★4 漢文を親しむ	<ul style="list-style-type: none"> ・ことばの持つ力について考える。 ・独特の文体を読み味わう。 ・様々なジャンルの漢文に親しむ。 ・話の展開を追いつながり、漢文の楽しさを味わう。 ・在原業平について理解する。 ・敬語法について理解する。 	読	○	観察・作業					
		4						○5	読	○	観察・作業	
		5						○0				○
	6	○0										
	7	○0										
	2	8	○0									
		9	○5 ●3 物語の広がり		○	読	○	観察・作業				
		10	○0									
	11	○0										
3	12	○0										
	1	○0										
	2	○0										
小計	13											
合計	70											

令和8年度 シラバス

()

学年	教科	科目	単位数	担当教員	展開	使用教科書	改訂版 新 高校の数学 I	
1	数学	数学 I	3	我妻 伸也	必修	副教材名	改訂版 新 高校の数学 I 対応教科書学習ノート 数学 I	
科目の目標		数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を育成すること。						
学習の内容と進め方		問題解決型学習により進める。						
学習の留意点		計算能力（処理速度）よりも数学的理解に重きを置いた学習姿勢を望む。						
評価の観点	知識・技能	数学 I における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解しているとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることができる。						
	思考・判断・表現	数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力を身につけることができる。						
	主体的に取り組む態度	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとしている。また、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。						
評価規準	知識・技能	A	Bを上回る状況を達成している。					
		B	数学 I における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解しているとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることができる。					
		C	Bに達していない。					
	思考・判断・表現	A	Bを上回る状況を達成している。					
		B	数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力を身につけることができる。					
		C	Bに達していない。					
	主体的に取り組む態度	A	Bを上回る状況を達成している。					
		B	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとしている。また、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしている。					
		C	Bに達していない。					
学期	月	予定時数	単元	具体的な学習内容	評価の観点			評価方法等
					知	思	主	
一 学 期	4	0	第1章 数と式	第1節 数と式の計算	○	○	○	学習状況 プリント ワーク 単元テスト
		3						
		3						
		3						
		3						
		3						
	5	3	第2章 2次関数	第2節 1次不等式	○	○	○	学習状況 プリント ワーク 単元テスト
		3						
		3						
	6	3	第2章 2次関数	第1節 2次関数のグラフ	○	○	○	学習状況 プリント ワーク 単元テスト
		3						
		3						
		3						
		3						
		3						
7	3			○	○	○	学習状況 プリント ワーク 単元テスト	
	3							
	3							
小計		45						
二 学 期	8	0	第3章 図形と計量	第2節 2次関数の値の変化	○	○	○	学習状況 プリント ワーク 単元テスト
		3						
		0						
		3						
		3						
		3						
	9	3	第3章 図形と計量	第1節 三角比	○	○	○	学習状況 プリント 単元テスト
		3						
		3						
	10	3	第3章 図形と計量	第2節 三角比への応用	○	○	○	学習状況 プリント ワーク 単元テスト
		3						
		3						
		3						
		3						
		3						
11	0			○	○	○	学習状況 プリント ワーク 単元テスト	
	0							
	0							
12	3			○	○	○	学習状況 プリント ワーク 単元テスト	
	3							
	0							
小計		39						
三 学 期	1	0	第4章 集合と命題		○	○	○	学習状況 プリント ワーク 単元テスト
		3						
		3						
		3						
		3						
		3						
	2	3	第5章 データの分析		○	○	○	学習状況 プリント ワーク 単元テスト
		2						
		2						
		2						
3	2			○	○	○	学習状況 プリント ワーク 単元テスト	
	1							
0								
小計		21						
合計		105						

教科 科目 単位数	理科 生物基礎 2	受信校	北海道苫前商業高等学校	学科 学年(年次) 履修・実施	商業科 第1学年 必修・一斉
教科書 副教材	「i版 生物基礎 改訂版」(啓林館) 「i版 生物基礎 改訂版 授業ノート」(啓林館)				

1 目標

生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1)日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。
- (2)観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。
- (3)生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。
(高等学校学習指導要領(平成30年3月告示)より)

2 学習のポイント

- (1) 自然現象に興味をもち、その法則性について考えるようにしてください。
- (2) 学んだことを正確に記録する方法と態度を身につけてください。
- (3) Google Classroomなどのツールを使って課題やレポートの提出、振り返りなどを行います。
- (4) プリントを配布する場合がありますので、各自で管理してください。

3 学習の評価

(1) 評価の観点と規準

次の3つの観点に基づいて内容や時間のまとまりごとに「A・B・C」の3段階で評価を行い、学年末に5段階評定へと総括します。

①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	生物や生物現象について、問題を見だし見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に考察し表現しているなど、科学的に探究している。	生物や生物現象についてに関する事象・現象に進んでかかわり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

(2) 評価方法と観点の関連(◎=特に関連の深いもの)

	評価方法\観点	①	②	③	主な対象
ア	学習活動の観察			◎	授業内の活動および発表
イ	実験操作	○	○	○	実験時の取り組み
ウ	レポート		◎	○	実験レポート・考察課題の内容
エ	テスト	◎	◎		小テスト・単元テスト
総括時の比率		1	1	1	

4 その他

<遠隔授業について>

- (1) 授業者は対面授業時を除き、基本的に配信校から授業をします。授業中の質問や疑問等については随時対応しますが、申し出にくい場合などについては、教室にいる受信担当の先生に申し出ても構いません。
- (2) 音声や画面の不具合などがある場合には授業中でも遠慮なく教えてください。
- (3) Google Classroom等を用いて課題提出や振り返り、資料配布などを行います。毎時間、端末を用意してください。

<学習の支援について>

授業について、不安なことや気になること、配慮して欲しいことなどがあれば、可能な範囲で個別対応します。直接相談しにくい場合は、Classroomやワークシートに書いてもらっても構いません。

5 年間授業計画 (計 70 時間)

月	○単元 ●主な教材	配当 (時)	【学習領域】 ・主な学習内容	目標・ねらい	観点ごとの 主な評価の対象 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度
4 / 5 / 6	オリエンテーション	1		・遠隔授業の雰囲気をつくり、これからの学習の指針を立てる。	
	第1部 生物の特徴	15	第1章 生物の多様性と共通性 第2章 生命活動とエネルギー	<ul style="list-style-type: none"> ・現存する多様な生物には共通性があり、その共通性は共通の起源をもつことに由来することを理解する。 ・単細胞生物と多細胞生物の機能における共通性と多細胞生物の体の成り立ちを理解する。 ・細胞が生物の基本単位であることを理解する。 ・生物の活動に必要なエネルギーの出入りと、生物に必要な物質の合成や分解について理解する。 ・生命活動に必要なエネルギーとATPについて理解する。 ・酵素の性質とその働きについて理解する。 ・光合成によって光エネルギーを用いて有機物がつくられ、呼吸によって有機物からエネルギーが取り出されることを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①単元テスト 小テスト ②ワークシート 考察課題 ③学習活動の取組
7 / 8 / 9	第2部 遺伝子とその働き	15	第1章 遺伝情報を担う物質 第2章 遺伝情報とタンパク質	<ul style="list-style-type: none"> ・遺伝情報を担う物質としてのDNAの特徴について理解する。 ・DNAが塩基の相補性に依存して二重らせん構造をもち、塩基の配列が遺伝情報となることを理解する。 ・体細胞分裂では、分裂前に母細胞のDNAと同じ塩基配列のDNAが作られることを理解する。 ・細胞周期の間期と分裂期におけるDNA量の変化を理解する ・DNAの塩基配列の情報がタンパク質のアミノ酸配列の情報になることを理解する。 ・転写と翻訳における塩基配列からアミノ酸配列への情報の流れを理解する。また、タンパク質が酵素として働くことで、生命現象を支えていることを理解する。 ・すべての遺伝子が常に発現しているわけではなく、個体の部位に応じて発現している遺伝子が異なることを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①単元テスト 小テスト ②ワークシート 考察課題 ③学習活動の取組
10 / 11 / 12	第3部 ヒトの体の調節	22	第1章 神経系と内分泌系による調節	<ul style="list-style-type: none"> ・生物の体内環境が一定に保たれていること、体内環境とは体液の環境であることを理解する。 ・自律神経系によって心拍数が適切に保たれていることを理解する。 ・体内環境がホルモンにより調節されていることを理解する。 ・血糖濃度は自律神経やホルモンの 	<ul style="list-style-type: none"> ①単元テスト 小テスト ②ワークシート 考察課題 ③学習活動の取組

			第2章 免疫	<p>作用により一定の範囲に保たれていることを理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体温調節や体液濃度の調節は交感神経や、ホルモンの作用により保たれていることを理解する。 ・病原菌などの異物を認識、排除して体内環境を守るしくみを理解する。 ・非特異的な自然免疫の反応について理解する。 ・体液性免疫と細胞性免疫のそれぞれのしくみを理解する。 ・免疫が実際の病気とどのように関わっているのかを理解する。 	
1 / 2 / 3	第4部 生物の多様性と生態系	17	<p>第1章 植生と遷移</p> <p>第2章 生態系とその保全</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な植生が成立する要因には植物の環境への適応が関わっていることを理解する。 ・陸上の植生が移り変わっていくこととその要因を理解する。 ・気温と降水量の違いによって、地球上ではさまざまなバイオームが成立していることを理解する ・日本のバイオームの特徴を理解する。 ・生態系の成り立ちを理解する。 ・キーストーン種と間接効果について理解する。 ・生態系のバランスについて理解する。 ・生物多様性の保全の重要性について理解する。 	<p>①単元テスト 小テスト</p> <p>②ワークシート 考察課題</p> <p>③学習活動の取組</p>

令和8年度 シラバス

()

学年	教科	科目	単位数	担当教員	展開	使用教科書		
1	保健体育	体育	2	吉田 和輝	必修	副教材名		
科目の目標		運動の合理的、計画的な実践を通して、楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。生涯にわたって運動を継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、協力する、責任を果たす、参画する、1人1人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。						
学習の内容と進め方		各学習内容について、安全と個々の技術や体力に配慮しながら、課題解決のため主体的に取り組む事ができるよう進めて行きます。						
学習の留意点		安全に配慮し、個々の力を尊重しあい、協力しながら学習に取り組みましょう。						
評価の観点	知識・技能	体の動かし方や用具の操作方法などの具体的な知識と運動の実践を通して、各領域の特性や楽しさを味わうとともに、技能や攻防ができていくか。						
	思考・判断・表現	自他の課題を発見し、合理的で計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、考えたことを他者に伝えることができるか。						
	主体的に取り組む態度	公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、違いを尊重しようとする意欲を持ち、健康、安全を確保できているか。						
評価規準	知識・技能	A	Bを上回る状況を達成している。					
		B	基本的な体の動かし方や用具の操作方法を理解し、各領域の基本的な技能を身に付けている。					
		C	Bの状況に達成していない段階にある。					
	思考・判断・表現	A	Bを上回る状況を達成している。					
		B	各領域において課題を見つけ、解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間が考えたことを他者に伝えている。					
		C	Bの状況に達成していない段階にある。					
	主体的に取り組む態度	A	Bを上回る状況を達成している。					
		B	他と協調しながら安全に配慮し主体的に取り組もうとしている。					
		C	Bの状況に達成していない段階にある。					
学期	月	予定時数	単元	具体的な学習内容	評価の観点			評価方法等
					知	思	主	
一 学 期	4	0	オリエンテーション（1時間） 体づくり運動・集団行動（4時間）	体ほぐし、体力を高める運動	○	○	○	取り組み スキルテスト 記録、レポート
		1						
		2						
	5	0	スポーツテスト（2時間） 器械運動（10時間）	マット運動（回転系・巧技系）の 基本的な技	○	○	○	
		2						
		2						
		2						
		2						
	6	0	パークゴルフ（6時間）	ルール、マナー、道具の使い方 地域との連携	○	○	○	
		2						
		2						
	7	0	体育理論（2時間） 体育理論（2時間）		○	○	○	
		2						
		2						
	小計		25					
二 学 期	8	0	バレーボール（8時間）	ルール、基本動作、ゲーム	○	○	○	
		0						
		2						
	9	0	陸上競技（4時間）	短/長距離走、リレー ルール、基本動作、ゲーム	○	○	○	
		2						
		2						
	10	0	バスケットボール（10時間）		○	○	○	
		2						
		2						
	11	0	体育理論（2時間）		○	○	○	
		0						
		2						
	12	0						
		2						
		2						
小計		24						
三 学 期	1	0	スキー（14時間）	スキーの基本動作（プルークボーゲン、 シュテムターン、パラレルターン）	○	○	○	
		2						
		6						
	2	0	体づくり運動（5時間）	体ほぐし、体力を高める運動	○	○	○	
		0						
		1						
	3	0						
		2						
		2						
		2						
小計		21						
合計		70						

令和8年度 シラバス

()

学年	教科	科目	単位数	担当教員	展開	使用教科書	現代高等保健体育				
1	保健体育	保健	1	吉田 和輝	必修	副教材名	現代高等保健体育ノート				
科目の目標		社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。健康についての自他や社会									
学習の内容と進め方		ア. 現代社会と健康 イ. 安全な社会生活 について、自分の事と捉えられるよう、日常生活の中から身近な課題や例を									
学習の留意点		自分自身と密接に関わることだと意識して、積極的に学習を進めることにより、一層理解が深まります。									
評価の観点	知識・技能	学習内容について理解し、健康で安全な社会生活を送るための基本的な知識を身に付けているか。									
	思考・判断・表現	学習内容について、日常生活から課題を見だし、他者との関わりの中で課題解決へ向け、思考し判断し伝え合うことが									
	主体的に取り組む態度	学習内容について、自身の健康課題の解決に向け、主体的に取り組もうとしているか。									
評価標準	知識・技能	A	Bを上回る状況を達成している。								
		B	健康で安全な社会生活を送るための基本的な知識を身に付けている。								
		C	Bの状況に達成していない段階にある。								
	思考・判断・表現	A	Bを上回る状況を達成している。								
		B	日常生活から課題を見だし、課題解決へ向け、他者との関わりの中で伝え合うことができている。								
		C	Bの状況に達成していない段階にある。								
	主体的に取り組む態度	A	Bを上回る状況を達成している。								
		B	健康で安全な社会生活を送るために、自身にとって適切な選択ができている。								
		C	Bの状況に達成していない段階にある。								
学期	月	予定時数	単元	具体的な学習内容	評価の観点			評価方法等			
一 学 期	4	1	オリエンテーション 現代社会と健康	健康の考え方と成り立ち 私たちの健康のすがた 生活習慣病の予防と回復 がんの原因と予防	○	○	○	課題, 提出物 単元テスト レポート ノート 発表			
		1									
		1									
		1									
	5	0			がんの治療と回復 単元テスト	○	○		○		
		1									
		1									
	6	1			運動と健康 食事と健康 休養・睡眠と健康 喫煙と健康 飲酒と健康	○	○		○		
		1									
		1									
	7	1			薬物乱用と健康 単元テスト 単元テスト	○	○		○		
		1									
		0									
	小計	15									
	二 学 期	8			0	安全な社会生活	精神疾患の特徴 精神疾患の予防 精神疾患からの回復 現代の感染症 現代の感染症 感染症の予防 性感染症・エイズとその予防		○	○	○
1											
1											
1											
1											
9		1	単元テスト	○	○			○			
		1									
		1									
		1									
10		0	健康に関する意思決定・行動選択 健康に関する環境づくり 事故の現状と発生要因 安全な社会の形成 交通における安全 単元テスト	○	○			○			
		1									
		1									
		1									
		0									
11	1	単元テスト	○	○	○						
	1										
	1										
	0										
12	1	単元テスト	○	○	○						
	1										
	1										
	0										
小計	14										
三 学 期	1	0	応急手当の意義とその基本 日常的な応急手当 心肺蘇生法	○	○	○					
		1									
		1									
	2	1		単元テスト	○	○	○				
		1									
		0									
		0									
	3	1		単元テスト	○	○	○				
		0									
		0									
小計	6										
合計	35										

令和8年度 シラバス

()

学年	教科	科目	単位数	担当教員	展開	使用教科書	Amity English Communication I	
1	外国語	英語コミュニケーションI	3	松下 広希	必修	副教材名	グリーン・ブレッブ イングリッシュ[第3版]	
科目の目標		英文の理解、音読、聴解、作文、対話等をバランスよく学び、習得させる。						
学習の内容と進め方		上記の目標を達成するために、教科書、単語集の他、様々な教材を利用する。						
学習の留意点		生徒個々人の能力、得意分野を配慮し興味関心を持たせ、卒業後の自学自習につなげられるように実施する。						
評価の観点	知識・技能	基本的な英単語や文法を理解し、運用できること。						
	思考・判断・表現	場面に応じて、自分の表現したいことを、適切な英語表現で表すことができること。						
	主体的に取り組む態度	苦手な分野であっても、他と協力し合いながら積極的に探究、発表ができること。						
評価規準	知識・技能	A	英語の理解・運用が優れており、ALTとも自立してコミュニケーションを図れること。					
		B	英語の基礎的な知識を用いて、ある程度自己表現をし、ALTとも日本語を混ぜながらコミュニケーションを図れること。					
		C	今後も著しい努力を要すること。					
	思考・判断・表現	A	ALTとの対話や、その場に応じて自分の主張を英語で展開できること。					
		B	場面に応じて、適切な単語を選択し、ある程度自己表現ができること。					
		C	今後も著しい努力を要すること。					
	主体的に取り組む態度	A	教員の指示なしに、英語それ自身の学習のみならず、背景知識の習得に積極的であること。					
		B	自立した思考・判断、および学習がある程度できること。					
		C	今後も著しい努力を要すること。					
学期	月	予定時数	単元	具体的な学習内容	評価の観点			評価方法等
					知	思	主	
一学期	4	2	Get Ready ①～③ 【プ】ユニット1～2 (P14～25)	身近な表現、和製英語、数字 月名、アルファベット 辞書の引き方	○		○	課題
		2			○		○	
		2			○	○	○	
	5	2	Lesson 1 【プ】ユニット3～4 (P26～37) 【パ】Tell me about your trip	世界の絶景 代名詞、be動詞	○	○	○	課題 発表
		1			○		○	
		3			○	○	○	
	6	2	Lesson 2 【プ】ユニット5～6 (P38～49)	ちびまる子ちゃん 過去形、疑問文・否定文	○	○	○	課題
		3			○		○	
		3						
	7	2		全商英検対策	○		○	
		3						
		3						
0								
小計		39						
二学期	8	2		全商英検対策	○		○	課題
		2			○		○	
		3			○	○	○	
	9	2	Lesson 3 【プ】ユニット7～8 (P50～61) 【パ】My emotional Experience	ダンスの力 疑問文・進行形	○	○	○	課題 発表 発表
		3			○	○	○	
		2			○	○	○	
	10	2	Lesson 4 【プ】ユニット9 (P62～65)	世界の絶滅危惧種 canとmust	○	○	○	課題
		3			○		○	
		3						
	11	2	Lesson 5 【プ】ユニット10 (P66～73) 【パ】Let's keep on speaking for minutes	チョコレートの歴史 be going to&will	○	○	○	課題 発表
		2			○		○	
		2			○	○	○	
12	2		まとめ			○		
	2							
	3							
小計		42						
三学期	1	2	Lesson 5	チョコレートの歴史	○	○	○	課題
		2			○		○	
		2			○	○	○	
	2	2	Lesson 6 【プ】ユニット11 (P74～77) 【パ】My speech	私達の学校 現在完了	○	○	○	課題 発表
		3			○	○	○	
		3						
	3	2	Lesson 7 【プ】ユニット12 (P78～84)	セレンディビティ 不定詞	○	○	○	課題
		3			○		○	
		2						
0								
小計		24						
合計		105						

令和8年度 シラバス

()

学年	教科	科目	単位数	担当教員	展開	使用教科書	ビジネス基礎 新訂版(実教出版)							
1	商業	ビジネス基礎	3	成田 治男	必修	副教材名	—————							
科目の目標		商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、ビジネスを通じ地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な基礎的な資質・能力と次のおりに育成することを旨とする。 (1) ビジネスについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2) ビジネスに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。 (3) ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学び、ビジネスの創造と発展に主体的かつ積極的に取り組む態度を養う。												
学習の内容と進め方		・ビジネスの諸活動に関する基礎的、基本的な内容を教科書やワークシートを用いて学習をし、理解を深める。												
学習の留意点		・ニュースや新聞記事などから情報を収集し、ビジネスの動きを知る習慣をつける。 ・日常から挨拶・マナー・身だしなみを意識して、基本的なビジネスマナーを習得する。												
評価の観点	知識・技能	ビジネスについて実務に即して体系的・系統的に理解し、ビジネスの様々な場面で役に立つ、ビジネスに関する基礎的な知識と技術を身に付けている。												
	思考・判断・表現	ビジネスをはじめとして様々な知識、技術を活用し、ビジネスに関する課題を発見するとともに、企業活動が社会に及ぼす影響を踏まえ、市場の動向、ビジネスに関する理論、データ、成功事例や改善に要する根拠に基づいて工夫し、よりよく解決することについて考えている。												
	主体的に取り組む態度	ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自らビジネスについて学ぶ態度及び組織の一員として自己の役割を認識して、当事者としての意識をもち、他者と信頼関係を構築して積極的にに関わり、ビジネスの創造と発展に責任をもって取り組もうとしている。												
評価規準	知識・技術	A	Bを上回る状況を達成している。											
		B	学習の目的や意義を理解し、ビジネスに関する基礎的な知識と技術を身に付けている。											
		C	Bの状況に達成していない段階である。											
	思考・判断・表現	A	Bを上回る状況を達成している。											
		B	ビジネスをはじめとして様々な知識、技術を活用し、課題を発見するとともに、企業活動が社会に及ぼす影響を踏まえ、それに必要な情報を根拠に基づいて工夫し、解決しようとしている。											
		C	Bの状況に達成していない段階である。											
	主体的に取り組む態度	A	Bを上回る状況を達成している。											
		B	ビジネスを適切に展開する力の向上を目指し、当事者としての意識をもち、他者と信頼関係を構築して積極的にに関わり、ビジネスの創造と発展に責任をもって取り組もうとしている。											
		C	Bの状況に達成していない段階である。											
学期	月	予定時数	単元	具体的な学習内容	評価の観点			評価方法等						
					知	思	主							
一学期	4	3	第1章 商業の学習とビジネス	・いざビジネスの世界へ ・私たちの社会とビジネス	○	○	○	・自発的発問や回答 ・ワークシート						
		4												
		5												
	5	2	第2章 ビジネスとコミュニケーション	・情報の入手と活用 ・ビジネス計算の応用	○	○	○	・ワークシート ・自発的発問や回答 ・ロールプレイング ・単元テスト ・ワークシート ・自発的発問や回答						
		1												
		2												
		3												
		3												
	6	3	第7章 ビジネス計算	・ビジネス計算の応用	○	○	○	・自発的発問や回答						
		2												
		3												
	7	1	第6章 ビジネスと売買取引	・売買取引の手順	○	○	○	・単元テスト ・ワークシート ・自発的発問や回答 ・単元テスト						
		4												
		0												
		0												
7	1													
	2													
	0													
小計		36												
二学期	8	1	第3章 経済と流通の基礎	・経済の仕組みとビジネス	○	○	○	・ワークシート ・自発的発問や回答 ・単元テスト						
		2												
		4												
	9	3	第4章 さまざまなビジネス	・ビジネスの種類 ・小売業 ・小売業 ・卸売業 ・物流業 ・金融業	○	○	○	・ワークシート ・自発的発問や回答 ・自発的発問や回答 ・単元テスト						
		1												
		2												
		4												
		4												
	10	4	第5章 企業活動の基礎	・ビジネスと企業 ・マーケティングの重要性 ・資金調達 ・財務諸表の役割 ・企業活動と税 ・雇用	○	○	○	・ワークシート ・自発的発問や回答 ・探究学習 ・単元テスト						
		4												
		2												
		1												
	11	2												
		2												
		2												
12	1													
	1													
	0													
小計		40												
三学期	1	3	第8章 身近な地域のビジネス	・さまざまな地域の魅力と課題 ・地域ビジネスの動向	○	○	○	・ワークシート ・自発的発問や回答 ・探究学習						
		5												
		4												
	2	4												
		1												
		3												
		1												
3	1													
	2													
	4													
小計		29												
合計		105												

令和8年度 シラバス

()

学年	教科	科目	単位数	担当教員	展開	使用教科書	新簿記（実教出版）				
1	商業	簿記	4	高橋・松野郷	必修	副教材名	反復式 簿記問題集 全商3級				
科目の目標		<p>商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、取引の記録と財務諸表の作成に必要な資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。</p> <p>(1) 簿記について実務に即して体系的・実証的に理解するとともに、関連する技術・技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 取引の記録と財務諸表の作成の方法の妥当性と課題を見いだし、ビジネスに携わる者として科学的な態度に基づいて創造的に課題に対応する力を養う。</p> <p>(3) 企業会計に関する法規と基準を適切に適用する力の向上を目指して自ら学び、適正な取引の記録と財務諸表の作成に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>									
学習の内容と進め方		<p>・簿記の意味、役割、目的を理解することや資産・負債・資本と貸借対照表、収益・費用と損益計算書、簿記の一連の流れについて学習し、簿記に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。</p> <p>・現金預金、商品売買、債権債務、固定資産、個人企業の純資産と税、販売費および一般管理費、本支店会計について取り扱い、取引の記録を行うための基礎的な知識・技能を身に付ける。</p> <p>・決算の意味や目的、決算整理、財務諸表について取り扱い、決算に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。</p> <p>・会計帳簿の種類と帳簿全体の仕組みについて取り扱い、帳簿と帳簿組織について理解する。</p>									
学習の留意点		<p>・プリントやワークは、原書そのまま写すのではなく、自分で考えたことや感じたこと、さらに興味を持ったことを整理しておくこと、後で見直した際に効果的な学習ができます。</p> <p>・授業中で取り上げる例題や記帳練習をもとに、放課後や自宅で繰り返し復習することが大切です。また、分からないところは先生に聞くか、級友と教え合うなどそのうちに確認しましょう。</p>									
評価の観点	知識・技能	<p>・簿記の記録、計算、整理に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、簿記の基本的な仕組みについて理解しているか。</p> <p>・企業における法規や基準の変更に対応し、簿記に関する基礎的・基本的な技術を習得し、的確に処理する能力を身に付けているか。</p>									
	思考・判断・表現	<p>・取引の処理方法や記帳法について自ら考えを深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用し、表現できているか。</p>									
	主体的に取り組む態度	<p>・企業における簿記に関心を持ち、その知識と技術の習得を目指して主体的に取り組んでいるか。</p>									
評価規準	知識・技能	A	Bを上回る状況を達成している。				振返フォーム 問題集提出 単元テスト				
		B	学習の目的や意義を理解し、取引の記録・計算・整理に関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。								
		C	Bの状況に達成していない段階である。								
	思考・判断・表現	A	Bを上回る状況を達成している。								
		B	取引の処理方法や記帳法について自ら考えを深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用し、表現しようとしている。								
		C	Bの状況に達成していない段階である。								
主体的に取り組む態度	A	Bを上回る状況を達成している。									
	B	企業における簿記に関心を持ち、当事者意識をもって、その知識と技術の習得を目指して主体的に取り組もうとしている。									
	C	Bの状況に達成していない段階である。									
学期	月	予定時数	単元	具体的な学習内容	評価の観点			評価方法等			
					知	思	主				
一学期	4	0	オリエンテーション第1章 簿記の基礎	1. 簿記とは、2. 簿記の目的、3. 簿記の種類、4. 簿記の歴史、5. 簿記の前提条件	○	○	○	振返フォーム 問題集提出 単元テスト			
		0			第2章 資産・負債・純資産と貸借対照表	○	○		○		
		0				第3章 収益・費用と損益計算書	○		○	○	
	0	4月	0	第4章 取引と勘定			○		○	○	
	0		第5章 仕訳と転記		○		○		○		
	0				第6章 仕訳帳と総勘定元帳	○	○		○		
	0					第7章 試算表	○		○	○	
	0						第8章 精算表		○	○	○
	0								第9章 決算	○	○
	0	第10章 現金・預金などの取引		○						○	○
	0		第11章 商品売上の取引	○						○	○
	0			第12章 掛け取引	○					○	○
	0				第13章 手形の取引	○				○	○
	0					小計	0			○	○
0	二学期						0	1 学期の復習第14章 その他の債権・債務	○	○	○
0		第15章 固定資産の取引					○		○	○	
0			第16章 個人企業の資本の取引				○		○	○	
0				第17章 販売費と一般管理費、税金の取引			○		○	○	
0					第18章 決算整理（その1）		○		○	○	
0						10月	0		第19章 決算整理（その2）	○	○
0	第20章 帳簿決算						○	○		○	
0		第21章 会計帳簿					○	○		○	
0			第22章 伝票の利用				○	○		○	
0				小計			0	○		○	○
0					三学期		0	2 学期の復習第23章 会計ソフトウェアの活用		○	○
0						第24章 特殊な手形の取引	○		○	○	
0	第25章 有価証券の取引						○		○	○	
0		第26章 本支店会計					○		○	○	
0			第27章 最近の実務に広がる取引〔発展〕				○		○	○	
0				第28章 決算整理（その2）			○		○	○	
0					小計		0	○	○	○	
0						合計	0	○	○	○	

令和8年度 シラバス

()

学年	教 科	科 目	単位数	担当教員	展開	使用教科書	情報処理 Prologue of Computer (実教出版)	
1	商業	情報処理	3	成田 治男・藤田 薫	必修	副教材名	学習と検定 全商情報処理検定テキスト 情報処理	
科目の目標		<ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータの基本的なしくみやソフトウェアなど情報処理機器の活用に関する知識と技術を習得します。 ・表計算ソフトウェアやデータベースソフトウェアなど既成のソフトウェアや情報通信ネットワークなどを利用して、情報を収集・整理して分析・伝達するなど活用に必要な能力と態度を身につける。 						
学習の内容と進め方		<ul style="list-style-type: none"> ・第1章、第2章は情報処理の概要やネットワーク、モラルについて講義形式で展開します。説明を聴きノートへおよび配布プリント等への記入に取り組んでください。 ・第3章以降は、コンピュータを操作しソフトウェアの使い方を身につけてください。 						
学習の留意点		<ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータの操作は、指示をよく聞き正しい使用法を身につけましょう。 ・授業には積極的に参加し、身につけた知識や技術を応用できることを目指して取り組みましょう。 						
評価の観点	知識・技術	・ビジネスの諸活動に関する情報の意義や役割を理解し、適切なソフトウェアを活用することができる。						
	思考・判断・表現	・情報処理に関する知識やコンピュータを使用して課題に対して効果的に取り組むことができる。						
	主体的に取り組む態度	・ビジネスの諸活動に関する情報の意義や役割について関心を持ち、情報を適切に収集、処理しようとする。						
評価規準	知識・技能	A	・ Bを上回る状況を達成している。					
		B	・ 学習の目的や意義を理解し、基本的な活用ができる。					
		C	・ Bの状況に達していない段階である。					
	思考・判断・表現	A	・ Bを上回る状況を達成している。					
		B	・ 状況や場面に応じて知識や技術を活用することができる。					
		C	・ Bの状況に達していない段階である。					
	主体的に取り組む態度	A	・ Bを上回る状況を達成している。					
		B	・ 知識や技術の取得に前向きである。					
		C	・ Bの状況に達していない段階である。					
学期	月	予定時数	単 元	具体的な学習内容	評価の観点			評価方法等
					知	思	主	
一 学 期	4	0	オリエンテーション	・ 1年間の学習の確認				<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習状況 ・ 課題、提出物
		3	第1章 企業活動と情報処理	情報の意義と役割 情報システム 情報社会の価値とモラル 情報社会と法規 個人情報の保護	○		○	
		4	1節 情報処理の重要性 2節 情報モラルと法規	情報デザインの重要性、影響と効果			○	
	5	2	3節 コミュニケーションと情報デザイン					
		1	第2章 コンピュータシステムと情報通信ネットワーク	ハードウェア ソフトウェア	○		○	
		1	1節 コンピュータシステムの概要	情報通信ネットワークの役割、構成			○	
		3	2節 情報通信ネットワークのしくみと構成	Webページの検索、活用 電子メールの活用			○	
		4	3節 インターネットの活用	セキュリティ管理の重要性、管理			○	
	6	3	4節 情報セキュリティの確保					
		1	5節 問題の発券と解決の方法					
		1	第3章 情報の集計と分析	表計算ソフトウェアの活用例 統計の基礎	○		○	
		5	1節 ビジネスと統計	データの入力と計算式の設定 基本的な関数			○	
		2	2節 関数を利用した表の作成	グラフの種類と概要 基本的なグラフの作成			○	
	7	2	3節 グラフの作成	応用的なグラフの作成			○	
		0	4節 情報の整理・検索・抽出	データの整列 検索・抽出			○	
3		5節 問題の発見と解決の方法	問題の発見と問題解決のプロセス			○		
0			モデル化とシミュレーション アルゴリズムとプログラム			○		
0						○		
小計		37						
二 学 期	8	1	第4章 ビジネス文書の作成	ビジネス文書の役割と構成	○		○	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習状況 ・ 課題、提出物
		3	1節 ビジネス文書と表現	ワープロの操作と入力方法			○	
		3	2節 基本文書の作成	ワープロを利用した文書の作成			○	
	9	1		社外文書 社内文書			○	
		1		表計算とグラフを含んだ文書の作成			○	
		2		表現力に富んだ報告書の作成			○	
		5		その他の機能			○	
		4					○	
	10	5					○	
		4					○	
		4					○	
		3					○	
		5					○	
	11	2					○	
		1					○	
3						○		
4						○		
0						○		
12	1					○		
	3					○		
	4					○		
	0					○		
	0					○		
小計		49						
三 学 期	1	8	第5章 プレゼンテーション	プレゼンテーションの意義 基礎	○		○	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習状況 ・ 課題、提出物
		0	1節 プレゼンテーションの方法	プレゼンテーションの種類			○	
		0	2節 ビジネスにおけるプレゼンテーション	ソフトウェアの利用 スライドの作成			○	
	2	3					○	
		0					○	
		3					○	
		1					○	
		0					○	
	3	3					○	
		0					○	
1						○		
小計		19						
合計		105						

令和8年度 シラバス

()

学年	教科	科目	単位数	担当教員	展開	使用教科書	_____	
1	商業科(全教科)	とままえ基礎	1	虎野・藤田	必修	副教材名	_____	
科目の目標		高校生活の基盤となる苫前町に関する歴史の調査研究、伝統芸能の学びを通して、苫前町の風土を体感し、郷土愛を深める。						
学習の内容と進め方		1「苫前町の町花探索」、2「苫前町の歴史調査」、3「苫前町の伝統芸能の体験・発表」について地域の人材を活用した調べ学習、及び学習内容のまとめ、学習成果の発表を行うとともに、学習素材の見学や体験を通して、直に苫前町の風土と歴史に触れる学習を進めます。						
学習の留意点		考查の実施はありません。普段の授業での取り組みが評価につながります。提出物等は自分なりに丁寧に記入できるよう取り組みましょう。						
評価の観点	知識・技能	苫前町について、調査・研究した事柄を協働してまとめ、生徒相互に発表し、批評することによって苫前町の歴史・風土・産業を知り、理解を深めようとしている。						
	思考・判断・表現	苫前町の芸能の成り立ちについて、意義や芸能にこめられた先人の思いを感じ取り、実際に取り組むことによってその思いを表現しようとしている。						
	主体的に取り組む態度	生活の基盤となる苫前町に関心を寄せ、苫前町を知ろうとする意欲をもって、調査の手法を工夫し、苫前町を知る喜びを実感しようとしている。						
評価規準	知識・技能	A	Bを上回る状況を達成している。					
		B	学習の目的や意義を理解し、調査・研究のための基本的な技能を活用している。					
		C	Bの状況に達成していない段階である。					
	思考・判断・表現	A	Bを上回る状況を達成している。					
		B	調査・研究の過程から、歴史を探究し、そこから発生した芸能や文化的行動を知ることによって、先人の思いを理解し、表現しようとしている。					
		C	Bの状況に達成していない段階である。					
	主体的に取り組む態度	A	Bを上回る状況を達成している。					
		B	苫前町に対する関心を持ち、その調査・研究に積極的に関わろうという意識をもって、校内外の人とコミュニケーションを図っている。					
		C	Bの状況に達成していない段階である。					
学期	月	予定時数	単元	具体的な学習内容	評価の観点			評価方法等
					知	思	主	
一 学 期	4	0	1 苫前町の町花探索	・オリエンテーション ・自分の住んでた街を振り返る ・苫前町の町花である「エゾエンゴサク」についてインターネットで調べる(由来・咲いている場所など)。	○		○	調査・研究
		1						
		1						
		1						
	5	0	2 苫前町の歴史調査 (熊事件を中心に)	・実際に町内を探索し、どこに生息しているか調査・採取する。(理科・保健体育科) ・まとめ(国語科・外国語科) ・苫前町の部落・地名について調べる	○		○	調査・研究
		1						
		1						
	6	2	1・2のまとめ 中間発表会 伝統芸能	・まとめ(国語科・外国語科) ・発表(エゾエンゴサク、歴史資料館、熊事件について) ・オリエンテーション 伝統芸能について知る	○		○	スライド資料 発表
		0						
		0						
小計		19						
二 学 期	8	0	3 苫前町の伝統芸能の体験・発表	・苫前町の伝統芸能である「豊饗太鼓(熊嵐)」と「くま獅子舞」の体験をする。(どちらか1つ)	○		○	体験学習
		2						
		2						
		0						
	9	2	体験発表会	・苫前町の伝統芸能を地域の方に披露する				
		0						
		0						
	10	2						
		2						
		0						
11	2							
	0							
	0							
12	2							
	0							
	0							
小計		16						
三 学 期	1	0						
		0						
		0						
	2	0						
		0						
		0						
	3	0						
		0						
		0						
	小計		0					
合計		35						